

平成25年度実施 協働事業 中間報告

◆行政提案型協働事業

	事業名	パートナー	担当部署
①	応急手当の普及・啓発事業	ひらつか応急手当協力会	消防本部消防救急課
②	外国籍市民支援放送事業	多文化共生ひらつか情報局	市民部文化・交流課
③	食品の放射性物質簡易検査	NPO法人ひらつかエネルギーカフェ	市民部市民情報・相談課
④	協働による地域づくり事業～地域の課題解決に向けた市民活動団体との連携～(ひらつか地域づくり市民大学)	NPO法人湘南NPOサポートセンター	社会教育部中央公民館 市民部協働推進課

◆市民提案型協働事業

	事業名	パートナー	担当部署
①	「地域猫」への取り組み	平塚のら猫を減らす会	環境部環境政策課
②	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業	ごみを活かす会	環境部資源循環課
③	里地里山保全活動による地域環境再生と共生社会の確立(グラウンドワークの推進)	土屋里地里山再生グループ	環境部環境政策課

平成25年9月
平塚市

平成25年度 協働事業 中間ヒアリング調書

25年 8月20日

事業名	応急手当の普及・啓発事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 	
団体・担当課	団体名：ひらつか応急手当協力会	担当課：消防救急課
事業を実施して良かった点・成果	平塚市の実施する応急手当の啓発に協力し、多くの市民に応急手当の知識や技術を広めることができた。 4月から7月までに52回の応急手当講習会に講師として参加。受講者1,674名	受講者10人に対し1人の講師が必要であるために受講者多数の場合は消防隊が対応していたが、災害等が発生すると講習会を抜ける状況であった。現在は協力会の参加で対応できるようになった。
事業実施した上で気づいた課題	協力会が独自の形で講習会を実施するためには地域や各種団体へ働きかけが必要である。	協力会の会員が16名となり、当初からは増員しているが、講習会に参加する会員に偏りが見られ一定の会員に負担がかかっている。
課題への改善・解決策の協議内容	協力会独自の講習会を実施するため、各会員が所属している自治会や団体等に声かけを行い講習会の開催を呼び掛ける。	協力会が独自に行う事業所に協力をするとともに、今後も会員の増員に協力していく。
事業終了後の具体的な展開 ※下欄 次年度以降の展開（事業をどのように活かしていくか等）や、上記の選択項目の補足をご記入ください。	■双方で実施（ <input type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外） <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 今年度で休止または終了 <input type="checkbox"/> その他（ ） <hr/> 今後とも双方で行うことにより、ガイドラインの改正に対応し、専門的な知識や技術を習得する。また、協力会独自の講習会を開催していく。	■双方で実施（ <input type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外） <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 今年度で休止または終了 <input type="checkbox"/> その他（ ） <hr/> 新規の受講者はもとより、普通救命講習の受講者は2年から3年ごとに再講習を受講する必要がある。継続的に事業を実施し受講者の増員を図っていく。
意見交換の内容・その他気付いた点（双方合同で記入）	（上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど） 救命講習会の回数が増加している中、今後も救命講習を実施していくには双方の協力が不可欠となっている。また、協力会主催の講習会実施に向け会員各々が地域に声かけをしていくことが必要である。	

※現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成25年度 協働事業 中間ヒアリング調書

平成25年8月26日

事業名	外国籍市民支援放送事業	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業
団体・担当課	団体名：多文化共生ひらつか情報局	担当課：文化・交流課
事業を実施して良かった点・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動として長く続けてきた実績のうえに市との協働となり、信頼度が上がったようだ。 ・多文化共生社会という言葉と共に、その意義も広がり、行政や警察などの広報手段の一つとして連携できた。 	<p>協働となったことで、情報交換や情報共有、お互いの役割の確認ができ、相互理解が進んだ。</p> <p>またボランティアと顔の見える関係を作れたことで、率直にいろいろ話せるようになった。</p>
事業実施した上で気づいた課題	<p>日常生活では話題に上らないような情報が母語で発信されるので、リスナーや外国人と結婚した日本人から良い番組であると反応があった。ただ、多言語放送と言っても言語数には限りがあるので、汎用性のある英語の必要性を一層痛感した。</p>	<p>ラジオ放送原稿の翻訳だけではなく、キャスターも時間や勉強が必要なことが分かり、当初の予算見積もりが甘かったことが分かった。</p> <p>ボランティア相互の不公平感が出ないようにしたい。</p>
課題への改善・解決策の協議内容	<p>母語で英語キャスターのできる、また母語でなくても英語翻訳をし、放送時間に来局できる人を探す。</p>	<p>ボランティアとの話し合いや協力により、翻訳料を減額し、キャスターにも一部払われるように調整した。</p> <p>ただ、専門性の高い有償ボランティアの対価としては低く、今後参加者を増やすためにも、予算計上について検討したい。</p>
事業終了後の具体的な展開 ※下欄 次年度以降の展開 (事業をどのように活かしていくか等)や、上記の選択項目の補足をご記入ください。	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 双方で実施 (<input checked="" type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外) <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 今年度で休止または終了 <input type="checkbox"/> その他 () </p> <hr/> <p>(できれば今年度中に実施したいが、)2,3ヶ月に1回15~30分程度、キャスターの母国文化紹介番組や市民活動団体のゲストを呼ぶコーナーを作り、キャスターやリスナーの文化理解を深めたい。そのような積み重ねが多文化共生社会につながると考えている。</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 双方で実施 (<input checked="" type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外) <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 今年度で休止または終了 <input type="checkbox"/> その他 () </p> <hr/> <p>放送に関わる人々を増やし、放送言語の追加やさまざまな外国籍コミュニティや市民活動団体との連携を図るなど、内容を充実させていきたい。</p>
意見交換の内容・その他気付いた点 (双方合同で記入)	<p>(上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施や事業のPRはこまめにしていきたい。 ・災害時の対応について、参集のルール作りやナパサとの打ち合わせをこれから考えていく予定。 	

※現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成25年度 協働事業 中間ヒアリング調書

平成 25年 8月 26日

事業名	食品の放射性物質簡易検査	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業
------------	--------------	---

団体・担当課	団体名：NPO法人ひらつかエネルギーカフェ	担当課：市民情報・相談課
事業を実施して良かった点・成果	<p>昨年12月から今年7月までに、58件の検査を実施し、結果は57件が検出限界値未満であった。</p> <p>検出されなかった場合、ほとんどの依頼者（市民）は安心感を得、また測定値の意味について理解を深めることができたと思われる（アンケート回答より）。</p> <p>検出された1件は、自家栽培品で基準値を超えた数値であったが、食前に検査依頼して食べずに済んだという意味で、この制度が作られたことに感謝された。</p>	<p>市民活動団体が検査を目の前で実施し、市民自身で結果の確認ができるので、安心を強く実感することができている。</p> <p>検査結果が基準値を超えた自家栽培品が1件あったが、消費されるのを回避できた。</p> <p>また、同作物の流通品について重点的に県の検査が実施されることになり、流通食品の安全が確保された。</p> <p>食品中の放射性物質への市民の不安解消ができ、いつでも検査できるという安心感を確保できている。</p>
事業実施した上で気づいた課題	<p>実績予想は目標値である年間検査件数200の半数弱に止まりそうである。</p> <p>この依頼数は「風評被害と安全神話」の間での市民の現在の立ち位置を反映していると思うが、一方では不安を持ちながらも制度を知らない市民も少なくないと感じる（依頼者との会話より）。</p>	<p>当初は予約が多かったが、予約が少ない時期もある。</p> <p>食品に不安を持ちながら、量的なことなどで、検査に至らないケースがある。また、不安を持っているが、検査実施を知らなかったという市民の声も多い。</p>
課題への改善・解決策の協議内容	<p>制度の存在を知らずに不安を抱えている市民に届く広報の強化が必要。</p>	<p>市民への周知を図るため、食品や放射能に関する講演会の実施、イベント等を利用して資料を配布する。</p> <p>量的問題を解消するため市購入品の検査を実施する。</p>
事業終了後の具体的な展開	<p>■両方で実施（<input checked="" type="checkbox"/>提案型 <input type="checkbox"/>提案型以外）</p> <p><input type="checkbox"/>団体が単独で実施</p> <p><input type="checkbox"/>行政が単独で実施</p> <p><input type="checkbox"/>今年度で休止または終了</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p>	<p>■両方で実施（<input checked="" type="checkbox"/>提案型 <input type="checkbox"/>提案型以外）</p> <p><input type="checkbox"/>団体が単独で実施</p> <p><input type="checkbox"/>行政が単独で実施</p> <p><input type="checkbox"/>今年度で休止または終了</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p>
※下欄 次年度以降の展開（事業をどのように活かしていくか等）や、上記の選択項目の補足をご記入ください。	<p>消費者側検査が広く存在することが生産者側に慎重な検査を促し、全国規模での食の安全に繋がっている面もあり、継続の重要性とともに検査対象の広域化も必要。</p>	
意見交換の内容・その他気付いた点（双方合同で記入）	<p>（上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど）</p>	

※現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成25年度 協働事業 中間ヒアリング調書

25年8月23日

事業名	協働による地域づくり事業～地域の課題解決に向けた市民活動団体との連携（ひらつか地域づくり市民大学）	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業
団体・担当課	団体名：NPO法人湘南NPOサポートセンター	担当課：中央公民館・協働推進課
事業を実施して良かった点・成果	ひらつか地域づくり市民大学は9/1(日)より全5回の連続講座を行う。そのため具体的な成果は講座を修了した時点、及びその後参加者が地域で具体的な活動を行っていくことが成果につながると言える。今回の事業の企画・実行に至るまで担当課との意見交換や協働して取り組もうとする関係性は現状良好であると感じている。	団体と協働したことにより、講師選定を含め、平塚市の実状に即したカリキュラムを組めた。また、講座の募集にあたり団体のネットワークにより、幅広いPRが出来た。 ※8月16日現在：公開講座73名・全講座30名申込
事業実施した上で気づいた課題	協働事業の目標設定すなわち「まちづくりセンター」のイメージの共有化及び工程に関して、事業を推進する中での現場の声との調整を同時進行で進めなくてはならない関係上、難しさを感じる。	今回の受講者を今後地域のコーディネーターとしてどのようにつないでいくか、行政内での更なる検討が必要であると感じる。
課題への改善・解決策の協議内容	事業の終了時の時点で、事業目標の「仮説」に対する「検証」ができていることが必要である。進捗を確認しつつ、よく話し合いを続けていくことが必要である。	公民館のまちづくりセンター化に向けた機能検討の中で、地域コーディネーターの役割について整理する必要がある。
事業終了後の具体的な展開 ※下欄 次年度以降の展開（事業をどのように活かしていくか等）や、上記の選択項目の補足をご記入ください。	<input type="checkbox"/> 双方で実施（ <input type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外） <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 今年度で休止または終了 <input checked="" type="checkbox"/> その他（協動的相補性をもって事業展開をしていく） <hr/> 25年度の受講者のその後の地域活動における支援を行うと共に、新たな地域の人材発掘と育成を継続して行うことが重要であると考えます。	<input type="checkbox"/> 双方で実施（ <input type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外） <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 今年度で休止または終了 <input checked="" type="checkbox"/> その他（協働事業の枠外で実施を検討） <hr/> 25年度の実施状況により、協働事業の枠外（担当課事業としての実施を含め）来年度の実施方法を検討する必要がある。
意見交換の内容・その他気付いた点（双方合同で記入）	（上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど）	

※現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成25年度 協働事業 中間ヒアリング調書

平成25年 8月26日

事業名	「地域猫」への取り組み	<input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業
-----	-------------	---

団体・担当課	団体名：平塚のら猫を減らす会	担当課：環境政策課
事業を実施して良かった点・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の成果は、のら猫問題から地域の課題が見え、まちづくりの意味を確認。 ・猫トラブルで「うつ病」状態の数事例から市・自治会等と人の問題解決の必要性を確認し事業の発展継続を共有出来た。 ・この事業への行政の取り組み姿勢を地域が評価し幾つかの解決の進展があった。 ・会メンバーの事業への理解度が深まり「地域猫」活動への自信となった。 	<p>地域住民との話し合いにおいて、団体がノウハウや経験に基づく説明を行なってもらうことで、市単独で行なうよりも地域猫の有用性をアピールすることが出来ている。また、平成23年度から活動してきたことで、具体的な成功例もいくつか紹介することが出来るようになり、地域の方々に対して地域猫活動を説明する際も、理解されやすくなったと感じている。</p>
事業実施した上で気づいた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・のら猫が地域の人間関係崩壊の原因になって、人が心を病む事態になっている。 ・空前のペットブーム（ペット可集合住宅90%）と動物愛護法の改正の社会背景を考慮し、抜本的な行政と地域の取り組みが必要になると考える。 ・問題に苦しむ地域の発信に対応する現状から、広報での啓発強化の必要が有る。 	<p>平成23年度から地域猫活動を続けてきたことにより、初めて訪れた地域でも、口コミ等で他の地域猫を行なった地域の話などを聞いたことがあるという例も増えてきた。市としても、更に地域猫のPRを行ない、野良猫のトラブルについて問題提起できる土壌をつくる必要があると考えている。</p>
課題への改善・解決策の協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・のら猫問題は多様な問題を包含している解決策の検討も当然だが、まちづくりを基本にどう継続した取り組み体制を作るかである。 ・猫から、地域で人が病む問題へ広がり始めている現状を考慮すると、不妊手術の繁殖防止を超えた対策は、団体の能力で対応できない新たな課題が有る。 	<p>野良猫問題を軽視せず、地域の大きな問題として考えてもらえるよう、PRの方法などを探っていきたい。また引き続き、積極的に問題の起きている地域の自治会等に連絡を行ない、団体と協力して、地域猫についての相談や説明を行なっていく必要がある。</p>
事業終了後の具体的な展開	<input type="checkbox"/> 双方で実施（ <input type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外） <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 今年度で休止または終了 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 今後検討 ）	<input type="checkbox"/> 双方で実施（ <input type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外） <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 今年度で休止または終了 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 今後検討 ）
※下欄 次年度以降の展開（事業をどのように活かしていくか等）や、上記の選択項目の補足をご記入ください。	<p>・市の庁内評価「動物愛護推進事業」は事業継続の見直しの評価と判断したが、現状「地域猫」の手法で継続するしかないので26年度以降は3年間の反省も踏まえて人が病む、と言う複雑で深刻な課題をどうするのか、市と検討して行く。</p>	<p>市民提案型協働事業としては、今年度で終了となるが、野良猫によるトラブルはまだまだ数多く発生しており、引き続き対応が必要と考えている。今後は協働推進課とも相談し、団体と協力して地域猫活動を続けていく体制を維持していきたい。</p>
意見交換の内容・その他気付いた点（双方合同で記入）	<p>（上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど） 状況や地域性の違いから、思い通りに話が進まない地域も多い。しかし団体と市、そして地域の方々との協議を行なって、それぞれが協力できる部分を見つけ出し、画一的方法にこだわらず、可能な範囲で行動していくことが大切である。</p>	

※現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成25年度 協働事業 中間ヒアリング調書

平成25年8月27日

<p>事業名</p>	<p>一般家庭での生ごみ自家処理推進事業</p>	<p><input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業</p>
<p>団体・担当課</p>	<p>団体名：ごみを活かす会</p>	<p>担当課：循環型社会推進課</p>
<p>事業を実施して良かった点・成果</p>	<p>相談員が居住する地域で講習会を開催していることから、参加者に身近な活動だとの印象を与えている。回を重ねる毎に前回の質問や反省点を活かした講習会につながり、発展が見られた。湘南ケーブルテレビが動画を作成し放映してくれたことは大きな成果であった。</p>	<p>本事業を通じて、生ごみ自家処理相談員として市に登録した者が講師となり、各地域で講座を実施することで、市民参加が容易になった。受講者は地域事情や生活様式に沿った生ごみの自家処理方法を受講できる。</p>
<p>事業実施した上で気づいた課題</p>	<p>上記放映をDVDにしたが、それだけでは内容が不充分である。自治会や地域により、ごみに対する意識、関心に差がありそれが参加人数にも表れている。地域での参加者の質問にきめ細かくこたえられることが必要</p>	<p>実際に家庭で取り組んでいる状況を分かりやすく例示する方法が課題である。 市民から講座開設の要望や、生ごみの自家処理に関する質問等を受けた場合の対応方法を明確にすることが必要である。</p>
<p>課題への改善・解決策の協議内容</p>	<p>相談員の自主性を尊重しながらも、「初心者がすぐ始められる」ことを視点に、内容を組み立て、DVDの補足説明などもする。各地域の自治会、ごみ減には必ず声かけをする。</p>	<p>生ごみの自家処理方法や市の施策をまとめた映像をSCNに制作していただき、講座の中で利用している。 生ごみ自家処理相談員が自ら会場を予約、講座の講師となり、団体は相談員を側面支援する体制が整ってきた。</p>
<p>事業終了後の具体的な展開</p> <p>※下欄 次年度以降の展開(事業をどのように活かしていくか等)や、上記の選択項目の補足をご記入ください。</p>	<p>■ 双方で実施 (<input type="checkbox"/> 提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 提案型以外) <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 今年度で休止または終了 <input type="checkbox"/> その他 ()</p> <hr/> <p>講習会をどのような形で継続していくか、行政と検討して行く。事業の3年目に、相談員を中心に開催しているのはその足がかりにしたいと考えているからです。 ごみ減量婦人の会やその他の環境団体との連携・協働を推進していきたい。 市民農園や家庭菜園との交流で堆肥の活用を図りたい。</p>	<p><input type="checkbox"/> 双方で実施 (<input type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外) <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 今年度で休止または終了 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()</p> <p>団体又は行政が市民から生ごみの自家処理に関する講座等の要望を受けた場合に、適宜対応が可能な体制を整えたいと考える。</p>
<p>意見交換の内容・その他気付いた点 (双方合同で記入)</p>	<p>(上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど) ・市役所ロビーに「生ごみ自家処理相談会」を月1回程度開設し、市民が気軽に相談できるようにしたい。</p>	

※現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成25年度 協働事業 中間ヒアリング調書

平成25年 8月26日

<p>事業名</p>	<p>里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立（グラウンドワークの推進）</p>	<p><input type="checkbox"/>行政提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/>市民提案型協働事業</p>
<p>団体・担当課</p>	<p>団体名：土屋里地里山再生グループ</p>	<p>担当課：環境政策課</p>
<p>事業を実施して良かった点・成果</p>	<p>里山保全活動の活動資金となることを期待して植樹したブルーベリーについて、それを利用したブルーベリー石鹸の製作が決まり、販売に係る店舗との話し合いも具体化してきている。</p>	<p>去年に引き続き、ブルーベリーの植栽やイベント等を開催することで、里山の利活用が行われている。団体のアイデアで様々なイベントが行われているため、市民が集まり、里山に親しみを持てる場所になってきていると感じている。</p>
<p>事業実施した上で気づいた課題</p>	<p>ブルーベリーの植栽エリアは水路に不安があり、大雨のたびに冠水してしまうため、水路の整備等の対策が不可欠である。</p>	<p>里山整備は地理的な要因に影響されることが多い。特に団体の活動するフィールドでは水捌けの悪い場所が多いため、イベントを開催する時などは通路の場所など、注意しながら進める必要がある。</p>
<p>課題への改善・解決策の協議内容</p>	<p>今後は、ブルーベリーの絶対量を必要に応じて確保するため、別の農地での生産が必要となる。保全エリアと生産エリアの区別化を考える時期に来ていると感じている。</p>	<p>活動内容等は団体と連絡を取りながら、相談して進めていく。自主財源確保のために必要なブルーベリーの利用等についても、相談して対応していきたい。</p>
<p>事業終了後の具体的な展開</p> <p>※下欄 次年度以降の展開（事業をどのように活かしていくか等）や、上記の選択項目の補足をご記入ください。</p>	<p><input type="checkbox"/>双方で実施（<input type="checkbox"/>提案型 <input type="checkbox"/>提案型以外） <input type="checkbox"/>団体が単独で実施 <input type="checkbox"/>行政が単独で実施 <input checked="" type="checkbox"/>今年度で休止または終了 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>スーパーや朝市等での農産物の販売や、加工品の店舗外での販売などを進めながら、団体として自立の目途が立ったところで、法人化していきたい。 また、協働事業で構築した木道について、イベント等においても有効に活用できていることを受け、今後は木道を延長し、病院退院後のリハビリや障がい者の機能訓練の場にするなど、より市民が利用できる憩いの場所にしていきたい。</p>	<p><input type="checkbox"/>双方で実施（<input type="checkbox"/>提案型 <input type="checkbox"/>提案型以外） <input type="checkbox"/>団体が単独で実施 <input type="checkbox"/>行政が単独で実施 <input checked="" type="checkbox"/>今年度で休止または終了 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>平成23年度から続けてきた協働事業は今年度で終了するが、今後も協働事業実施中に整備した駐車場や仮設トイレ、植栽したブルーベリー等を活かし、団体と可能な部分で協力しながら、里山の保全と再生及び利活用について進めていきたい。</p>
<p>意見交換の内容・その他気付いた点（双方合同で記入）</p>	<p>（上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど）</p> <p>それぞれの特長を活かしながら、着実に里山の利活用は進んでいる。それに伴い、イベントも多数開催し、整備した里山を利用しての2日間にわたる蛍観察会やキャンプ等の大掛かりなイベントも実施することができている。市民に向けての里山PRという点においても、とても有意義な協働事業になっていると考えている。</p>	

※現段階で可能な項目のみ記入してください。